

工場隣接地に物流センター設置

ポラテック坂東工場

積み込み時間 $\frac{2}{3}$ に短縮を目指す

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）は、坂東工場（茨城県坂東市）内に物流センターを設け、プレカット部材の出荷時の積み込みを効率化する。現在、トラック1台の積み込み時間は平均90分だが、これを60分に短縮することを目的に構内配置などの変更に取り組んでいる。同社では「おおよそ月に3万5000立方メートルの木材を荷受けし、加工して出荷する。多い日はトラックは240台くらい出入りするため、効率的な積み込みが課題になっている」と話している。

ポラテック坂東工場（地11万5820平方メートル）はクリエティブフィールド（3964平方メートル）、マイスターフィールド（2万9000平方メートル）の、主に3カ所のテクノフィールド（敷）工場に分かれている。

構造材加工実績は月間5万8000坪前後で、約1800棟の出荷を行っている。従来は構造材、羽柄材、合板など部位ごとに加工場所が異なり、それをトラックが巡回して積み込んでいた。トラックドライバーク不足が深刻化し、積み込みに掛かる待機時間も拘束時間として管理されるなど規制が強化されるなかで、同社ではクリエティブフィールドにあった製品置き場をなくし、新たにマイスター



新設された物流センター

フィールドに隣接する2万1120平方メートルの用地を取得し、物流センターを新設した。3拠点で加工したプレカット部材をこの物流

センターに隣接する2万1120平方メートルの用地を取得し、物流センターを新設した。3拠点で加工したプレカット部材をこの物流

センターに集約し、積み込みの効率化を図る。センター内にはテナント倉庫966平方メートルを6棟設け、加工済みプレカット部材を構造材、羽柄材、合板など部位別にトラックに置いて、そこで積み込みを行う。坂東工場には12カ所の中継センターがあり、中継センターには大型車でプレカッ

ト部材を横持ちし、そこから3ト車、4ト車などに積み替えて現場に配送する。工場から近い場所では直接3ト、4ト車に積み込み、現場に1日2回配送を行う。通常、住宅の現場には4〜6台のトラックが工程に合わせる。

坂東工場に出入りする運送会社のなかには4ト車用にトレーラーの荷台のような脱着式の荷台を設け、事前に荷台に積みこんでおくことで積み込み時間を大幅に短縮できる工夫をしているところもある。

同社は、まだ構内物流の効率化については取り組みの途中としており、荷台のシート掛けを安全に行えるような設備の設置や欧州の工場で行われている横に走るフォークリフトの研究、ラッピングなどの自動化にも取り組んでいる。